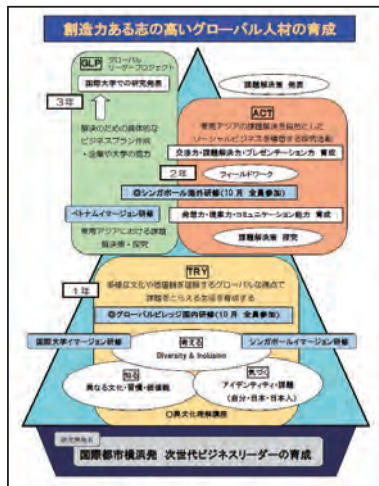


横浜市立南高等学校

国際都市横浜発 次世代ビジネスリーダーの育成

【構想の概要】

- 総合的な学習の時間（平成31年度＜令和元年度＞入学生からは総合的な探究の時間）「TRY & ACT」を中心に、東南アジア地域を主たるフィールドとして、持続性のあるソーシャルビジネスによって社会の課題を解決するアイデアを構想し、実践することができる次世代ビジネスリーダーの育成を目指す。
- 「環境」「資源」「経済」の側面から東南アジア社会の課題を捉えるため、専門家からのレクチャーや国内グローバル系大学との連携によるグループワーク等の協働学習、国内外フィールドワークによる探究活動等を通して、多様な文化や価値観を理解するとともに、コミュニケーション能力や論理的な思考力を育成する。
- 探究活動の深化を図るため、2年生より「グローバルリーダープロジェクト」(GLP)を設置し、海外イマージョン研修、現地フィールドワークなどを進め、将来のキャリアイメージの拡大も図る。



1年	2年	3年
TRY	ACT	
異文化を受容と、世界に貢献する意欲を持つ (Diversity and Inclusion)	東南アジアの課題発見	ビジネスによる東南アジアの課題解決プラン提案
	グローバルリーダー・プロジェクト グローバルビジネス課題解決型プログラムによる未来予測と起業 1月 研究発表 3年7月 国際大学研究発表	
	● シンガポールイマージョン ● ベトナムイマージョン ● シンガポール海外研修 (2学年) ● グローバルビレッジ (1学年) ● 国際大学国内イマージョン	

横浜市立南高等学校 令和元年度入学生 教育課程表

一部変更することもあります。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
1年	国語総合			世界史A			日本史A		数学I	数学II	数学A	物理基礎	生物基礎	体育	保健	(芸術選択) 音楽I 美術I 書道I	英語I	コミュニケーション	英語表現I	社会と情報	総合的な探究の時間	LHR											
2年	現代文B	古典B	現代社会			数学II	数学III	数学B	(理科選択) 化学基礎 地学基礎	体育	保健	英語II	コミュニケーション	英語表現II	家庭基礎	(4単位選択) 世界史B 日本史B (2単位選択) 地理A 政治・経済 物理 化学 生物 ｽｽﾞｰｺﾞｺﾞｺﾞｺﾞｺﾞｺﾞｺﾞ 音楽発展 美術発展 書道発展 典文化理解 情報の科学 7ｽｽﾞｰｺﾞｺﾞｺﾞｺﾞｺﾞｺﾞ	総合的な探究の時間	LHR															
3年	現代文B	古典発展	数学総合 (数学I・数学II・数学A・数学B)			体育	コミュニケーション英語III	英語表現II	(4単位選択) 古典発展 世界史発展 日本史発展 地理B 政治・経済発展 物理 化学 生物 地学 (2単位選択) 国語表現 古典探究 地理探究 世界史探究 日本史探究 倫理 倫政探究 政治・経済 数学探究A 数学探究B 物理応用 化学応用 生物応用 地学応用 生物・化学探究 生物・地学探究 ｽｽﾞｰｺﾞｺﾞｺﾞｺﾞｺﾞｺﾞ 音楽研究 演奏研究 美術研究 絵画 書道研究 英語応用 英語理解 フードデザイン 家庭看護・福祉と保育 ファッションデザイン 課題研究 (情報)	総合的な探究の時間	LHR																						

英語コミュニケーション能力に関する状況

2年生が全員で参加するシンガポール海外研修のほか、国内外イメージ研修や英語によるプレゼンテーション等、ツールとしての英語を実際に活用する場面を多く設定している。英語を活用したコミュニケーションを通して、世界の多くの人たちと意思疎通ができる喜びを感じさせながら、上達への意欲を喚起した。

平成30年度は3年生の91%が、6月に実用英語検定を受験した。これにより、高校入学時から卒業時までの3年間にわたる同検定の取得状況を比較することで、同一指標を用いた英語能力の伸長を検証することができた。

平成28年度入学生の、CEFRのB1～B2レベル以上の生徒の割合は、高校入学時に12.9%であったものが、高校2年生修了時に34.3%、高校卒業時には53.5%となっており、SGH指定の3年間に英語コミュニケーション能力が確実に伸長している。

【1年生4月（入学時）から3年生3月（卒業時）までの3年間の経年変化】

	実用英語検定 平成28年4月 (入学時)	実用英語検定 平成29年3月 (高1修了時)	実用英語検定 平成30年3月 (高2修了時)	実用英語検定 平成31年3月 (卒業時)
C2レベル	0人	0人	0人	0人(0人)
C1レベル	0人	0人	0人	1人(1人)
B2レベル	0人	2人	2人	24人(3人)
B1レベル	22人	43人	57人	67人(5人)
A2レベル	125人	114人	101人	74人(2人)
A1レベル	23人	13人	12人	6人(0人)

※CEFRの英語習熟度レベルに換算した数値。未受験の生徒は含まない。

※平成31年3月の数値は、3年生からSGH非対象となった生徒も含んでいる。

なお、平成30年度3年生のSGH対象生徒（GLP生徒）については、内数として（ ）で表記した。

課題探究の基礎を身につける

1年生全員を対象にした総合的な探究の時間に行う課題研究活動「TRYグローバル」のカリキュラムの中で、国際社会の多様性の理解や、課題を探究するにあたっての柔軟な発想や思考に資するよう、専門家等の講演やワークショップの機会を設けた。

「IBM講座」や「米国外交官講座」において異文化を受け入れる視座の必要性を実感したり、「デザイン思考講座」での演習を通して課題の発見方法を習得したりするなど、これからグローバルな課題探究を進めていくうえで、基礎となる知識や技能を身につけるといって効果的なプログラムである。

また、1年生全員を対象に一泊の宿泊研修を実施

している。そこで、公益社団法人青年海外協力協会（JOCA）やグローバル企業の方々を講師として種々ワークショップを行い、異文化適応力や課題解決能力の向上に資する企画となっている。

研究を相互に支える生徒を教員がサポート

課題設定や解決策の模索等、種々活動が進みつつある7月に、3学年の生徒がそれぞれのTRY&ACTの学習について情報を交換し、これまでの活動を振り返ったり、今後の活動に見通しをもったりする時間を設けている。

1年～3年の生徒2人ずつの6人グループに、教科に関係なく教員がつく。そして、例えば、1年生が「文化の違う人々と一緒に仕事をするには」という課題に対しての自分たちの考えを同じグループの2・3年生に説明して共有し、2・3年生からのアドバイスを受ける。さらに複数教科の教員が、テーマや意見等について教科横断的な視点で必要に応じて助言し、活動の質や意欲の向上に努めている。

GLPの取組で研究の深化

「TRYグローバル」で身につけた知識や技能を踏まえ、「ACTグローバル」として東南アジアの課題を発見しソーシャルビジネスの手法で解決策を提案する活動を続ける。その中で、研究の深化を希望する生徒約40人を上限に、グローバルリーダープロジェクト（GLP）として、本校教員と外部の講師（横浜市立大学、慶應義塾大学、株式会社日本政策金融公庫、種々グローバル企業等）から指導・支援を受けた。グローバルな問題につながる分野において自ら課題を定義し、国内外のフィールドワークを行い、分析検討し、解決策を提案した。

平成30年度の2年生GLP14名は、課題意識に応じていくつかのチームに分かれ、東南アジアの課題を発見してビジネスプランを立案し、起業に向けた行動計画を作成した。「第6回高校生ビジネスプラン・グランプリ」（日本政策金融公庫主催）で、全国4359件中、ベスト10に1チーム、ベスト100に1チームがそれぞれ選出されたことは一つの成果である。